

# 成長するコミュニティーガーデン

## 「作業」学ぶ場 将来は加工品づくりも



為近 岳夫講師

新アリーナ東側にある薬草園・コミュニティーガーデンは、作業療法の基礎を学ぶ場として位置づけられ、年間を通し学生たちが野菜や果実の栽培に取り組んでいます。先日は、学生らの手でピザ窯も設置されました。今後、ガーデンをどのように生かしていくのか、リハビリテーション学科生活機能療法学専攻の為近岳夫講師に寄稿してもらいました。

2018年に新アリーナとともに誕生した園芸実習スペース「薬草園・コミュニティーガーデン」（以下、ガーデン）は、草木が伸びるように年々成長を続けている。リハ学科OT専攻の講義では毎年さつまいもや夏野菜を育てている。初めはほとんどできなかったが徐々に収穫量も増え、今や作業療法の基礎となる「作業」を学ぶ場となっている。今後は、園芸療法士の資格取得コースの設置を目指す。サークル活動ではハーブや、ブルーベリーなど果実の栽培にも取り組んだ。将来的には、これらの収穫物を使ったジャムや入浴剤などの加工品づくりにも取り組みたい。

NEWSLETTER134号で紹介したピザ窯は、アクティビティクラブの学生たちがチームで作ってくれた。ガーデンの中心となったこのピザ窯で今後、調理したいと考えているのは、ガーデンで学生と栽培した食材を載せたピザである。コロナ禍においても持ち帰れるとい

うピザの利点を生かし、レストランへの配達なども考えたりする。

ポストコロナでは、ガーデンでのSG会や卒業生の同窓会開催も夢見ている。オープンキャンパスや学園祭での出店はもちろんのこと、地域のこどもや高齢者、ボランティア訪問していた施設利用者を大学に呼べる場所にしたい。そして、園芸を用いた認知症や介護予防の実践的研究、薬草の効用を用いた認知機能改善などの研究もできればと思う。気軽に卒業生が担当患者と立ち寄り、例えば学生と実習前のコミュニケーションの機会が自然にできる場になることを願う。私は、西里駅から熊保大へ人々を出迎えるガーデンの無限の可能性を感じながら、更なる発展を夢見ている。



手入れが行き届いた薬草園・コミュニティーガーデンの花畑。向こう側はJR西里駅



完成したピザ窯を囲む学生たち



「大きなイモが採れました」。収穫を楽しむ学生

# 脳卒中看護の技術磨きチーム医療の要めざす

認定看護師教育課程のオンライン実習報告会が3日（木）に行われ、6人の研修生が実習の成果を披露しました。

認定看護師教育は、臨床で5年以上のキャリアを持つ看護師を対象に日本看護協会が認定している制度です。研修生は現役の看護師で、計約6週間の臨地実習に臨む必要があります。この臨地実習での患者さんとの出会い、そしてリフレクションによる学びが、看護師としての成長を後押しする機会となります。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、1月に予定されていた2週間の臨地実習

が中止となり、学内実習に変更されました。報告会では、1人ずつ与えられた事例をもとに発表し、ディスカッションを交え、脳卒中回復期の患者に対する介入方法などを考察しました。

実習報告会后に、研修生6名から決意表明をいただきました。認定看護師教育課程でのすべての経験が今後の看護実践や人生を豊かなものとし、受講者全員がチーム医療の要となって活躍することを願っています。

（認定看護師教育課程・飯山有紀）

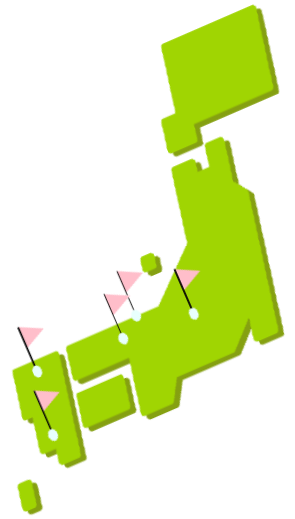
## 研修生6人決意新た「実践通し知識深める」

私たち研修生6名は、脳卒中看護を深めるため、長野、兵庫、京都、福岡、鹿児島から集まりました。4月からの座学の学びを持って急性期実習に挑み、重篤化回避やモニタリングだけではなく、予後予測を行い生活の場を見据えた看護展開を急性期から行なっていく必要性やチーム医療の中での看護師の役割を学びました。

今回コロナ禍の影響もあり、臨地実習（回復期）は学内実習に急遽変更となりました。ペーパーペイシエントで看護過程を展開し、看護理論を用いて考察しました。さらに、オンライン実習報告会でのディスカッションを通して、身体的な面だけでなく、自己概念や相互依存、役割様式という患者の根底をなす項目へ注目した介入を行う必要性を学びました。

今後、実践を通してさらに知識を深め、脳卒中看護の役割モデルとして患者の生活を守る認定看護師として活動していきたいと思えます。

（脳卒中看護分野2期生一同）



## 今週の1枚



## 国家試験頑張った！…ねぎらいのクッキー



看護学科同窓会より国家試験をねぎらう言葉が印字されたクッキーと携帯用手指消毒液Ⅱ写真Ⅱが贈られました。例年國家試験前に贈られる激励品ですが、今年はコロナの感染も考慮して國家試験後の15日（火）、自己採点に登学した看護学科の4年生10人に配られました。受け取った学生は「ただ言うれしかったです」と喜びの言葉を口にしました。

◆**大学院修士学位論文の成果を発表** 大学院修士学位論文の公開発表会が8日（火）、オンライン（Zoom）形式で開催され、リハビリテーション領域6人、臨床検査領域2人が臨みました。1人30分（発表20分、質疑応答10分）の持ち時間で行われ、一時参加者は50人を超えました。発表会に臨んだ大学院生は「とても緊張した状態で臨みましたが、これまで行ってきた研究の集大成として発表を終えることができ、達成感とこれまで手厚くご指導くださった先生方や研究に協力いただいた方々への感謝の気持ちでいっぱいになりました」と話していました。大学院研究科長の川口辰哉教授は「オリジナリティーが高く興味深い内容ばかりで、皆さんわかりやすく発表していました。コロナ禍で大変だったと思いますがよく頑張ったと思います」と評価していました。

◆**看護学科キャリア教育セミナー** 看護学科を対象としたキャリア教育セミナーが9（水）、10（木）の両日、行われました。各施設の情報収集を通じて、「将来はこうなりたい」、「看護師として働くとは」などの職業観を再確認し、将来の看護師・保健師・助産師への青写真を明確にしてもらうことを狙いとしています。今回はオンライン形式で行い、全国各地から2日間で計78施設（県内31施設、県外47施設）の参加がありました。参加施設からは「Zoom開催は移動時間の削減やチャットによる質問のしやすさなどがあり良いと思いました」などの評価をいただきました。また、学生からは「病院選びの幅が広がって良かった」などの感想をいただきました。3年生はいよいよ就職活動がスタートします。自分がやりたい看護ができる病院に出会えるように一緒に頑張りましょう。  
(就職・実習支援課)

## インフォメーション

週間行事予定 (2月19日～25日)	
2 / 19 (土)	言語聴覚士 国家試験、一般選抜 (追試験)
2 / 20 (日)	理学療法士、作業療法士 国家試験